

# 特集 国際交流で輝く未来 Part 3



5月10日から13日にかけて、タイ王国ピッサヌローク県にあるピブンソクラーム・ラチャパット大学で日本語教師を務める鈴木恭彦さんが、日本語を学ぶ学生とともに石岡市を訪問しました。

鈴木さんは当市出身で、旧朝日小学校の卒業生。教え子であるタイの学生たちは、鈴木さんの故郷である石岡市の子どもたちとどのように交流を図ったのかをご紹介します。

## 石岡第二高等学校



◀ 鉦を体験



「さくらさくら」を演奏▶



◀ お囃子の太鼓を体験

石岡二高では、生徒とともに学校行事・伝統文化体験に参加しました。

関東三大祭りの一つとされる「石岡のおまつり（常陸國總社宮例大祭）」の体験では、い組囃子によるお囃子を披露しました。ひょっとこやきつねのお面を実際に着けてみたり、和太鼓を叩いてみたりと、お祭りの雰囲気存分に味わうことができる貴重な体験となりました。

続いて、石岡三曲協会に所属する会員の皆さまのご指導のもと、琴の演奏体験を行いました。

午後には折り紙体験や体育の授業を通じて、高校生とさらなる交流を深めました。



## 石岡市立杉並小学校

杉並小学校では、まず6年生教室にて児童たちが石岡の歴史について説明したり、習字の体験を通して日本文化を紹介しました。初めての体験に戸惑いながらも児童の温かい協力のおかげで楽しく文化体験をすることができました。

その後、体育館では全学年による歓迎会が開かれ、児童による校歌斉唱のほか、タイの学生によるムエタイやセパタクローの披露も行われました。互いの文化に触れ合いながら、さまざまな体験を共有し、会場は終始、笑顔と活気に溢れていました。

習字体験の様子▶



◀ ムエタイ披露の様子

石岡の歴史の説明▶

